

## 蒲生干潟の地形調査③

### ■護岸ブロック付近の姿

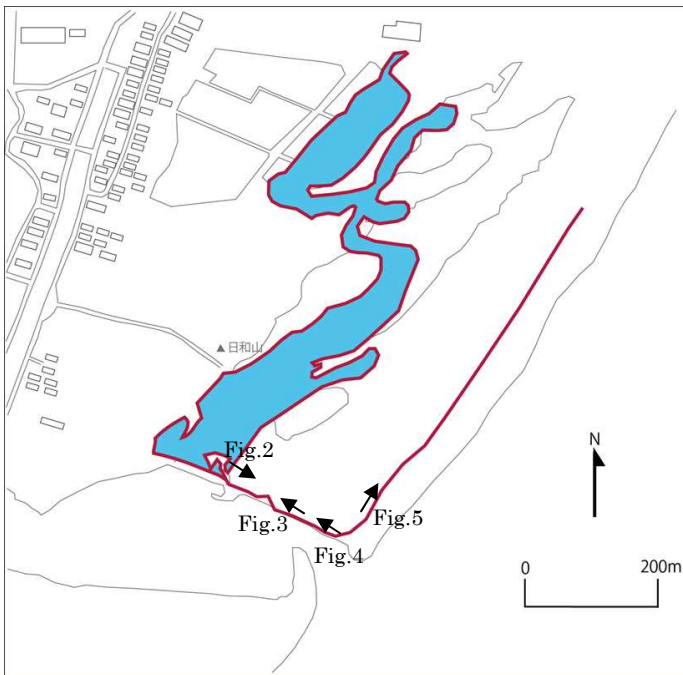


Fig.1 2015年5月14日の汀線の簡易測量結果



Fig.2 護岸ブロックと導流堤の間に流れ込む水 西側から撮影



Fig.3 護岸ブロックと導流堤の間に流れ込む水 東側から撮影



Fig.4 2つの護岸ブロックの間に堆積した砂



Fig.5 傾斜が緩やかになった海岸線

今回の調査は11:10~12:30に行き満潮時刻(12:34)に近い時間帯であった。4月の満潮時と比較して、汀線の記録(Fig.1)からは潟湖や海岸線の大きな変化は見られなかった。

導流堤と護岸ブロックの継ぎ目付近では水が入り込んでいる部分があり、先月の調査よりも西側に大きく水が入り込んでいる部分が確認された。(Fig.2)(Fig.3)写真の破線の部分は水が入り込んだ範囲を表している。

4月の調査では護岸ブロック付近は堆積の段階にあることを報告した。二つの護岸ブロックに挟まれている部分には砂が堆積しており(Fig.4)、5月もこの堆積の段階にあることが確認された。

また、海岸線は部分的に浸食されて出来た崖も見られず、傾斜が非常に緩やかであり、まっすぐに伸びていた。(Fig.5)

(中田 晋)